行動制限最小化のための6つのコア戦略

「データ利用」について考えてみよう

6つのコア戦略とは、アメリカの看護師によって発表された
隔離・身体拘束の最小化を推進する包括的なアプローチの方法です。
ここでは、戦略の1つに挙げられている、「データ利用」について考えます。

① 日本では、隔離・身体拘束がどのくらい実施されているか知っていますか？

令和2年度の精神保健福祉資料によると、6月30日に日本全国の精神病床に入院していた患者数は**269,476**人、隔離指示が出されていた人数は**12,689**人、身体拘束の指示が出されていた人数は**10,995**人でした。

入院患者数に対する割合を算出すると・・・

隔離 **4.7 %**　　身体拘束 **4.1 %**

日本では、精神病床に入院する患者さんのうち、約4%の人が隔離や身体拘束の対象になっているのですね。知りませんでした。このように数値で表すと比較が可能になりますね。

そうですね。データを利用し比較することで、いろいろな気づきが得られます。では、皆さんが勤務する病棟では、どれくらいの割合で隔離や身体拘束が行われているのか、知っていますか？計算して、比較してみましょう。

② 自分が勤務する病棟の隔離・身体拘束の割合を計算してみましょう。

ある1日に病棟に入院していた患者数 _____人　　隔離指示 _____人
身体拘束指示 _____人

隔離 　　%　　身体拘束 　　%

③ 全国や他の病棟の値と比べて多い？少ない？その理由を考えてみましょう。

④ 隔離・身体拘束の最小化のために、これから取り組めそうなこと、すでに取り組んでいて継続したほうがよい取り組みがないか考えてみましょう。

左のQRコードを読み取っていただくと、お問い合わせページへつながります。ご意見、ご感想もお待ちしております。